



鎌倉市歯科医師会 木村 智

歯の根の部分の露出によって

みなさんは知覚過敏をご存知でしょうか？最近TVの「コマーシャルなどでよく見かける、冷たいものを飲んだ時や歯磨きをした時にむし歯もないのにキーンとしみる、あの「ムシ」。

歯がしみると、まず頭に浮かぶことは「むし歯ができた？」と考えてしまいます。しかし、むし歯が無くても歯がしみることがあります。

知覚過敏とは、簡単に言うと、多くの場合、歯の根の部分が歯ぐきから露出することにより、この根の部分が刺激（歯ブラシ、冷たいもの等）により、しみてしまうことを言います。

通常、歯の頭の部分（エナメル質）は冷たいもの等の刺激を受けても痛みを感じることがありませんが、その下の歯の根の部分（象牙質）には知覚があります。象牙質には象牙細管といわれる細い管が沢山あり、それが歯の中心にある歯の神経（歯髄）に向かって通じています。この象牙細管の中には組織液が入っていて、これが冷たいものや歯磨きをしたときに移動し、歯髄を刺激することにより「しみる」と感じると考えられています。（語説あります）。

露出があっても、しみない場合も

では、歯の根が露出しているにもかかわらず

かというところ、そうでもありません。象牙細管が自然に詰まったり、細くなったりすると刺激が伝わりにくくなり、痛みは出ません。また、軽度の知覚過敏であれば、暫くすると象牙細管が詰まり、しみなくなることもあります。急に歯が知覚過敏でしみるようになったときは、何らかの原因で歯の根が露出したか、すでに詰まっている象牙細管が再び開いた可能性が考えられます。

複雑な要因を持つ知覚過敏

ここまで読むと、むし歯はなさそうだから、歯がしみるけど放っておけばいいや、と考えがちです。しかし、①歯と歯の間にもし歯が隠れている、②歯周炎（歯槽膿漏）で歯ぐきが減ってきた、③歯磨きにより

歯の根がすり減ってきた、④酸により歯の表面が溶けてきた、⑤歯ぎしりなどで歯に大きな負荷が加わった場合にも歯がしみる場合があります、原因を放置した場合は、歯の神経に炎症が起き（歯髄炎）、最悪の場合は歯の神経の処置をしなければならぬこともあります。

冷たいものにしみるだけの知覚過敏ですが、その原因は多岐にわたります。そのことにより、歯科医院専用の知覚過敏用の薬があります。残念ながら歯に塗っても効果が薄いことがあります（決定的な薬が無いいため、毎年のように新薬が開発されています）。このような複雑な要因を持った知覚過敏は、我々専門家も頭を悩ませますが、少なくとも素人判断（失礼！）で済まし、悪化させないことが肝要と考えられます。

思い当たることがある方は、かかりつけの歯科医院にてご相談ください。

（今泉台歯科医院）

